

御殿場市長 勝 又 正 美 様

御殿場らしい共生社会のまちづくりについて（提言）

本市人口8万3千人において65歳以上の市民が占める割合は26%であり実に全体の4人に1人が高齢者となっている。障がいのある人、外国人においては市民の33人に1人の割合となっており今後、外国人市民は増加する傾向にあると考えられている。一方で本市の社会福祉の基盤となる社会福祉協議会への加入世帯は、ここ数年間では徐々に減少方向であり全体の6割まで低下しており、社会福祉や貢献活動に対する関心が薄らいできている様子が伺える。そのように変化しつつある社会環境であるからこそ必要とされていることは、人として相互に人格と個性を尊重し支え合うことであり、社会的立場の弱い人々が偏見や差別もなく参加・貢献していくことができる全員参加型の社会である。

本委員会は、これまで首記テーマに基づき他自治体への視察や研修会を行い、また昨年11月6日には市内民生委員児童委員・ケアマネージャー・介護士・社会福祉協議会・障害者自立支援協議会の代表者に参集いただき「福祉文教委員会議会報告会」を開催し、活発な意見交換会も実施することができた。

ついては、このたび委員会としてこれまでの意見・要望を取りまとめたものをここに提言する。

御殿場市議会 福祉文教委員会

委員長 阿久根 真

副委員長 川 上 秀 範

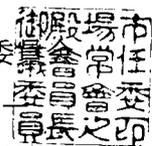
委 員 芹 澤 勝 徳

委 員 小 林 昌 美

委 員 池 谷 晴 一

委 員 高 村 芳 章

委 員 小 林 恵美子



「御殿場らしい共生社会のまちづくり」への提言

～誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を

相互に認め合える全員参加型の社会を目指して～

1. 環境のバリアフリーに向けて

- ・ 公共施設及び生活道路における歩道や高齢者、障がい者用の駐車場など、今後の共生社会を見据えたインフラに対するユニバーサルデザインを強化すること
- ・ 高齢者、障がい者など、車を運転できない交通弱者の移動手段となる公共交通機関の整備及びサービスをさらに拡充すること
- ・ 高齢者の増加に伴い需要が高まる介護福祉施設の拡充及び関係従事者の処遇改善を図ること
- ・ 子どもたちや高齢者にとって新たな居場所となる地域特性を生かした「子育てサロン」、「高齢者サロン」などへの継続支援及び空白地域への拠点づくりに対して積極的に働きかけること
- ・ 障がいのある人が差別、偏見なくいきいきと働ける就労環境の整備に向けた合理的配慮に対する啓発活動を推進すること

2. 教育・文化のバリアフリーに向けて

- ・ 共生社会の実現に向けた市民への教育及び啓発活動を推進すること
- ・ 農業やスポーツを通じた高齢者、障がい者との交流の場をさらに創出すること
- ・ 国立駿河療養所及び復生記念館を「共生社会」のシンボルとして後世に継承していくための気運を醸成すること
- ・ 重層的支援のコーディネーター及びアウトリーチ専門職員の確保と計画的な育成を進めること
- ・ 障がいのある児童生徒が卒業後に、地域や社会で貢献できるよう、より一層の教育機能と就労支援の充実を図ること

3. 心のバリアフリーに向けて

- ・ 「困った時はお互い様」であり、互いに助け合い思いやる心と行動を育む風土を醸成すること
- ・ 社会的に立場の弱い人やその家族が差別、偏見を気に掛けずに相談や共助を求めることをためらわないようお互いの「意識上のバリア」を払拭していくこと